

日本豚病研究会報

ISSN 0914-3017

PROCEEDINGS OF THE JAPANESE PIG VETERINARY SOCIETY

No.29

August 1996

日本豚病研究会・The Japanese Pig Veterinary Society

目次

第50回研究集会を迎えて		
.....藤崎 優次郎	1-1	
豚コレラの診断と防疫		
.....清水 実嗣	2-13	
英国と米国の豚コレラ撲滅計画		
.....熊谷 哲夫	14-21	
日本の豚コレラ清浄化計画		
.....吉村 史朗	22-24	
(藤崎賞受賞講演)		
わが国におけるSPF養豚の歩み		
.....赤池 洋二	25-28	
事務局から		
.....	29-31	

第50回研究集会を迎えて

藤崎優次郎

日本豚病研究会の第50回研究集会を迎えるに当たり一言ご挨拶申し上げます。初めに、本研究会発足当時のことを少しお話させて頂きたいと思います。

私の記憶によりますと、今から約30年前、農水省家畜衛生試験場が小平市にあった頃、試験場の豚病関係者が時折集まり、その時々豚の問題疾病を取り上げて話し合う豚病問題懇談会という勉強会がありました。この会は、とくに会則などはつくらず会報もだすこともない自由な会であったように記憶しております。実は、この豚病問題懇談会が現在の日本豚病研究会の母体になっております。

私がこの懇談会の世話役をお引受けしたのは、いまから16年前の昭和55年のことでした。その時に引き継いだ記録によると、懇談会は過去21回行われておりました。つまり年に1~2回開かれていたことになります。さて、昭和53年に家畜衛試は小平から筑波

に移転しましたが、これを機会に会の体裁を整え発展させたらどうかという関係者のご意見もありましたので、昭和57年4月に初めて会則をつくり豚病研究会として再発足することにいたしました。

先程お話したように、この研究会の生い立ちを考えますと、非常に古い歴史がありますのでそれを尊重して、研究集会の開催回数は、母体となっている懇談会から引き続き通し番号で数えることにいたしました。いっぽう、会報は昭和57年再発足したときに第1号を発行することになりました。研究集会の開催回数と会報の号数が符号していないのは以上のような理由によるものです。

さて、昭和57年4月に会則をつくり豚病研究会として正式に発足したわけですが、当初私どもが考えたこの研究会のあり方について簡単に触れさせて頂きたいと思います。

まず第一に、家畜衛生関係の研究会は学会等を含めて数多くあるので、あとから始める後発の研究会としては、既存の研究会とは内容的に違ったものでなければ意味がないので、先発の学会や研究会とは違った特徴を持たせる工夫が必要であること。

第二に、最近の豚病の動向から、この研究会はインターセクショナルな、いわゆる学際的な会にすべきであるということ。

第三に、現場重視の立場から、できるだけ養豚現場ですぐ役立つような話題やトピック的話題を優先的に取り上げていくこと。

概略以上のような運営方針を考え発足したわけですが、もちろん初めから枠を設けているわけではなく、今後も、会員の皆さんのご意見を踏まえて弾力的に運営していきたいと思っております。

具体的なメリットを会員が感じるような魅力のあるユニークな会にしたいと思っておりますので、会員皆さんの多方面にわたってのご協力をお願いしてご挨拶に代える次第です。